

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第3区分

【発行日】平成17年6月23日(2005.6.23)

【公開番号】特開2001-323235(P2001-323235A)

【公開日】平成13年11月22日(2001.11.22)

【出願番号】特願2000-141682(P2000-141682)

【国際特許分類第7版】

C 0 9 J 133/06

C 0 8 F 218/12

C 0 8 F 220/18

C 0 8 G 18/62

C 0 9 J 7/02

C 0 9 J 175/04

【F I】

C 0 9 J 133/06

C 0 8 F 218/12

C 0 8 F 220/18

C 0 8 G 18/62

C 0 9 J 7/02 Z

C 0 9 J 175/04

【手続補正書】

【提出日】平成16年9月30日(2004.9.30)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0013

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0013】

(a4) その他の単官能ラジカル重合性モノマーの少なくとも1種

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0043

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0043】

本発明の粘着剤組成物において、粘着付与樹脂(D)の含有量は、アクリル系共重合体樹脂(A)、界面活性剤(B)及びポリイソシアネート化合物(C)の合計量100重量部あたり、2~40重量部、好ましくは10~30重量部である。粘着付与樹脂(D)の含有量が2重量部未満の場合は、粘着剤組成物のタック及び接着力が低下し、40重量部を超える場合は、粘着剤組成物の保持力が低下し、更に、塗工した際に凝集物が発生する傾向がある。

【手続補正3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0044

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0044】

<水性粘着剤組成物の製造法>

本発明におけるアクリル系共重合体樹脂は、既知の重合方法の何れによっても得ることが出来、乳化重合や懸濁重合の他、有機溶媒中での溶液重合後、減圧下で有機溶媒を除去し転相により水性化する方法のいずれも可能である。中でも、水性媒体中、界面活性剤(B)及び粘着付与樹脂(D)の存在下に乳化重合する方法が好ましい。反応温度は、通常40～95、好ましくは60～85、反応時間は、通常1～24時間、好ましくは2～8時間である。

【手続補正4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0053

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0053】

なお、上記のプレエマルジョンは、2-エチルヘキシリクリート78部、メチルメタクリレート18部、2-ヒドロキシエチルメタクリレート2部、メタクリル酸0.5部、アクリロニトリル1.5部、「エレミノールJS-2」2.5部と水50部の混合物をホモミキサーにて機械乳化して予め調製したものである。

【手続補正5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0060

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0060】

<水性粘着剤組成物の調製>

実施例1

製造例1で得られたアクリル系水性エマルジョン100重量部に対してロジンエマルジョン(荒川化学工業(株)製「スーパーESTER E-650」)10重量部およびポリイソシアネート(日本ポリウレタン(株)製「アクアネート100」)0.5重量部を添加した後に攪拌して水性粘着剤組成物を調製した。